

心理科学部臨床心理学科AO方式入試

AO方式 課題レポート

2020年度 北海道医療大学心理科学部臨床心理学科AO方式入学試験

課題レポート問題

以下の文章を読み、【設問】に答えなさい。

1 生徒指導と教育相談

中学校学習指導要領解説（特別活動編）によれば、「教育相談は、一人一人の生徒の教育上の問題について、本人又はその親などに、その望ましい在り方を助言することである。その方法としては、1対1の相談活動に限定することなく、すべての教師が生徒に接するあらゆる機会をとらえ、あらゆる教育活動の実践の中に生かし、教育相談的な配慮をすることが大切である。」とされている。

すなわち、教育相談は、児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るものであり、決して特定の教員だけが行う性質のものではなく、相談室だけで行われるものでもありません。これら教育相談の目的を実現するためには、発達心理学や認知心理学、学校心理学などの理論と実践に学ぶことも大切です。また、学校は教育相談の実施に際して、計画的、組織的に情報提供や案内、説明を行い、実践することが必要となります。他方で、生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のこととされます。そのことは、「教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深め、生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことができるよう」指導・援助することでもあります。

教育相談と生徒指導の相違点としては、教育相談は主に個に焦点を当て、面接や演習を通して個の内面的変容を図ろうとするのに対して、生徒指導は主に集団に焦点を当て、行事や特別活動などにおいて、集団としての成果や変容を目指し、結果として個の変容に至るところにあります。児童生徒の問題行動に対する指導や、学校・学級の集団全体の安全を守るために管理や指導を行う部分は生徒指導の領域である一方、指導を受けた児童生徒にそのことを自分の課題として受け止めさせ、問題がどこにあるのか、今後どのように行動すべきかを主体的に考え、行動につなげるようにするには、教育相談における面接の技法や、発達心理学、臨床心理学の知見が、指導の効果を高める上でも重要な役割を果たし得ます。このように教育相談と生徒指導は重なることも多くありますが、教育相談は、生徒指導の一環として位置付けられるものであり、その中心的な役割を担うものといえます。

2 学校における教育相談の特質

（1）学校における教育相談の利点

学校における教育相談には、学校ならではの特質があります。学校における教育相談の利点としては、次のことが挙げられます。

①早期発見・早期対応が可能

教員は日ごろから児童生徒と同じ場で生活しています。そのため、児童生徒を観察し、家庭環境や成績など多くの情報を得ることができ、問題が大きくなる前にいち早く気付くことができることは、学校における教育相談の大きな利点です。専門機関のように本人や親から自発的に相談に来るのを待つのではなく、小さな兆候（サイン）をとらえて事案に応じて適切に対応し、深刻な状態になる前に早期に対応することが可能です。

②援助資源が豊富

学校には、学級担任・ホームルーム担任を始め、教育相談担当教員、養護教諭、生徒指導主事、スクールカウンセラーなど様々な立場の教員がいます。校長、教頭は管理職ならではの指導・支援ができます。専科教員や授業担当者、部活動の顧問は、日常の観察やきめ細かいかわりが可能です。最近ではスクールソーシャルワーカーといった外部人材（非常勤職員）も配置され始め、社会福祉的な視点からの見立てや支援も可能になりました。このように、学校には一人の児童生徒をめぐって様々

な教員が多様なかわりを持つことができ、特にその児童生徒の良いところを認め励ますことによって児童生徒を支えていくことができることが特徴であり、大きな利点といえます。

③連携が取りやすい

学校の内部においては、上記のように様々な教員がいて連携を取ることができます。また、外部との連携においても、学校という立場から連携が取りやすいことが挙げられます。相談機関、医療機関、児童相談所等の福祉機関、警察等の刑事司法関係の機関などとの連携は、困難な問題の解決に欠かすことができません。例えば、教育相談の中で発達障害の可能性に気付いた場合には、専門家と連携することで、早期に対応が可能となります。学校では、これら関係機関との日ごろからの連携体制づくりが重要となります。ただし、かわる人が多くなると、情報の管理が難しくなります。それぞれが知り得た情報を他の関係者に全く知らせなければ連携は成り立ちません。基本的には、その時にかかわった関係者の中で必要限度で情報を共有し、それ以外には洩らさないという秘密の保持、個人情報の保護などについての共通認識が求められます。また、現状において、学校と関係機関との間で必ずしも十分な連携が図られている例ばかりではないことも注意が必要です。特に近年続発している児童虐待による死亡事例では、学校と関係機関との間の連携の不十分さが指摘されることも目立っています。このように学校と関係機関が円滑に連携することができれば大きな力を発揮できる可能性がある一方で、その努力が足りずに児童生徒の命が失われるような事態をなくすためにも、関係機関との連携の在り方は、学校にとって大きな課題でもあるのです。

(2) 学校における教育相談の課題

①実施者と相談者が同じ場にいることによる難しさ

学校における教育相談は、すべての教員があらゆる機会をとらえて行うものであることは既に触れましたが、教育相談の実施者が、相談を受ける児童生徒と学校という同じ場で生活していることによる難しさというものがあります。つまり教育相談における面談に、それ以外の場面の児童生徒と教員の人間関係が反映しがちであるということです。場合によっては、児童生徒が教育相談の場面においても「この人は自分についての知識を持っている。」等と感じ、安心して相談する気持ちを妨げることがあります。このような場合には、学校における教育相談の利点である多様な援助資源を活用し、必要に応じてスクールカウンセラー等の、児童生徒が中立的と感じやすい者が教育相談を行えるよう校内において連携を図ることが必要です。

②学級担任・ホームルーム担任が教育相談を行う場合の葛藤

学級担任・ホームルーム担任が教育相談を行う場合には、特に問題行動などに対応する場面では、児童生徒に対する指導的かわりを担わなければならない立場と、教育相談の実施者としての役割という、一見矛盾した役割を同時に担うことが求められることがあります。このような場面では、一方で児童生徒がそのような問題を起こさざるを得なかった背景への理解を深め、その気持ちを受け止めるとともに、問題への指導も行わなければなりません。これは必ずしも二律背反の関係にあるわけではありませんが、実際に同一人が同時に行うことは容易ではないかもしれません。やはり学級担任・ホームルーム担任が一人で抱え込まずに、学校の利点を生かした対処を図ることが必要となります。

(出典 文部科学省刊 「生徒指導提要」第5章教育相談)

【設問】生徒指導提要とは、生徒指導の実践に際し、教員間や学校間で教職員の共通理解を図り、組織的・体系的な生徒指導の取組を進めることができるよう、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書として、小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等を、時代の変化に即して網羅的にまとめたものです。スクールカウンセリングの実施にあたってはパイプルのような書物であると考えられています。さて、この生徒指導提要には、教育相談と生徒指導の違いはどのようなものであると書かれていますか。また、学校における教育相談の利点とはなんであると解説していますか。これらをわかりやすく整理して記述してください。

その上で、「実施者と相談者が同じ場にいること」や「担任が教育相談を行う場合」に難しさや葛藤が生じるのはなぜであるか、自分の意見も加味しながら、述べて下さい。

(上記、すべて合計して1,200字以内)